

論文テーマ B) 観光資源保護におけるナショナルトラスト活動の役割について、私達の提案

資産価値の認識を目的とした観光コースの作成など

語学・観光系専門学校との実務レベルでの「産学連携」の提案

Proposal for an Industry and college cooperative effort at a practical business level utilizing the unique qualities of a language and tourism vocational school for the purpose of raising asset value awareness through tour course planning

要約

観光資源の保護と利活用に関して、積極的に観光地としてアピールすることで観光客の誘致を行う。そのためのナショナルトラストの役割として、管理する観光資源（ヘリテイジセンター及び保護資産）を観光コースの起点として位置づけたモデルコースを作成、ホームページ等で紹介する。その実務的作業に関して専門学校と連携して作業を進める。そのための連携システムを日本ナショナルトラストと専門学校間で構築できれば学生にとっては実務学習の機会となるが、それは同時に日本ナショナルトラストにとっては、ナショナルトラスト運動の啓蒙活動にもなり、若い世代を育てることに繋がる。

大阪外語専門学校 国際観光・ホテル・ブライダル科
(旅行・観光専攻) 新居美鈴・辻あゆみ

目次

はじめに	「観光資源の保護」と「観光という行為」は対立する概念か	3
第1章	「産学連携」について	3
第2章	ヘリテイジセンターを起点とした「葛城古道」（奈良県御所市）	5
第1節	「葛城古道」の資産的価値	5
第2節	ヘリテイジセンターを起点とした「葛城古道」観光コースの作成	6
第3章	JNT 保護資産「駒井家住宅」を起点としたヴォーリズ建築（京都府京都市）	10
第1節	「駒井家住宅」の資産的価値	10
第2節	「駒井家住宅」を起点としたヴォーリズ建築を巡る観光コースの作成	10
第4章	ヘリテイジセンターや保護資産を観光素材とし外国人観光客にもアピールする為に	13
第1節	ヘリテッジセンターや保護資産の活用案として観光コースの作成	13
(1)	白川郷合掌文化館（ヘリテイジセンター）と白川郷合掌造り民家（保護資産）	13
(2)	長浜鉄道文化館と北陸線電化記念館（共にヘリテイジセンター）	13
(3)	琴引浜鳴き砂文化館（ヘリテイジセンター）	14
(4)	名勝大乘院庭園文化館（ヘリテイジセンター）と名勝 旧大乘院庭園（保護資産）	14
第2節	JNT ホームページのマルチ言語化など	15
第5章	産学提携の枠組み	16
参考文献および参照ホームページ		17

はじめに 「観光資源の保護」と「観光という行為」は対立する概念か

一般的に「観光」という言葉と「保護」という言葉は相反すると解釈される場合も多い。顕著な例として「世界遺産登録」におけるいくつかの事例がある。ユネスコによって毎年世界遺産が登録され続け、2015年10月現在、その数は1031件（日本は19件）と増え続けている。テレビ・新聞等マスコミによる報道も世界遺産登録を大きく取り上げ、登録された場合、地元・自治体では祝賀ムードが漂う。その大きな理由として、世界遺産登録後の観光客の増加が見込まれることを否定することはできない。しかしながら世界遺産登録の理由はそういった観光客誘致とは全く関係はない。世界遺産の登録基準に基づき「顕著な普遍的価値」があると証明される「文化遺産」「自然遺産」を人類共通の財産として保護し、次世代に伝えていくことが目的となっている。ところが観光客が増加した場合、資産が観光客によって傷つけられるなどの問題が発生し、またその対応・対策に苦慮するといった事態が起こりうる。事例を挙げれば国内においても自然遺産の「白神山地」や「屋久島」文化遺産の「白川郷」、「紀伊山地の霊場と参詣道」、「富士山」など数多く指摘されている。

しかしながら観光という行為の目的は、そもそもその場所を訪問するということから始まる。その場所の写真を眺めたり、その場所について書かれた書物を読むという行為は観光とはいえないだろう。政府の観光政策審議会の「今後の観光政策の基本的な方向について」¹では、観光の定義を「余暇時間の中で、日常生活圏を離れて行うさまざまな活動であって、触れ合い、学び、遊ぶということを目的とするもの」としている。いたってシンプルな定義である。現在、世界遺産登録地などで見られる問題は「観光」そのものではなく、「観光客のマナーの問題」として捉えるべき要素が大半を占めているのではないだろうか。すなわち一番の問題点は、観光地とされる場所の歴史的・文化的な重要性について認識し、勉強することもなく、「世界遺産登録」といういわばブームに乗ってやってくる大量の観光客の「質」であり、そのブームを煽っているテレビ・新聞等のメディアにも問題があるかも知れない。

その場所にいくら「資産価値」があるとしても、例えば立ち入り禁止であれば、興味を持つことは難しく思えるし、その保存に関わることもできないのではないだろうか。私たちはむしろ「観光」することによってこそ「資産価値」を知ることができて、その中から「保存」に対する気持ちも芽生える可能性があるものだと考える。

第1章 「産学連携」について

「産学連携」は本来、企業と大学の連携を指す言葉であるが、この論文では公益社団法人日本ナショナルトラスト協会（JNT）²及びJNTの会員と専門学校の連携を指す。

JNTの活動は保護資産の調査・研究など、「学問領域」の要素を持っているが、私たちは専門学校生として観光における「実務領域」を学んでいる。その実務的な内容と連携して、JNTの設立趣意書にもある「ひろく観光資源保護思想の普及、埋もれた観光資源の調査、開発、保護対策の研究を進めるなど、総合

¹ 答申第39号、1995年6月2日

² 以下 JNTと記載

的、かつ、強力な活動を展開して、観光資源をその環境とともに保存し、活用を図ることにより、観光の健全な発展を促進・・・」における特に「活用を図ることにより、観光の健全な発展を促進」部分に関して提案できるのではないかと考えた。

保護されるものが「観光資源」であるあるならば、積極的に観光目的に利活用すべきである。そこで JNT も「観光客誘致」のために、より観光地に対する広報的な意味合いを強めることになる。本来「観光客誘致」は観光協会や旅行代理店の役割であるが、JNT ならではの切り口があるのではないか。

表 1.が JNT のヘリテイジセンター及び保護資産であるが、ヘリテッジセンターは JNT により 8 地域、9 カ所が設けられており、その目的は自然環境や文化遺産を守り生かすことで、まちづくりの拠点とするところ。ヘリテッジセンターは保護すべき資産の拠点であり、保護資産そのものではないが、ヘリテイジセンターと保護資産の関係については密接である場合が多く、例えば名勝 旧大乘院庭園（保護資産）内に名勝大乘院庭園文化館（ヘリテイジセンター）が造られているような事例もいくつかみられる。

「葛城の道歴史文化館」（奈良県御所市）は記念すべきヘリテイジセンターの第 1 号である。今回、実例として「葛城の道歴史文化館」（奈良県御所市）及び「駒井家住宅」（京都府京都市）を対象とした観光モデルコースを作成し、その過程において観光資源としての問題点を探るという試みをおこなった。

表 1 ヘリテイジセンターおよび保護資産一覧

名称		所在地
葛城の道歴史文化館	(ヘリテイジセンター)	奈良県御所市
飛騨の匠文化館	(ヘリテイジセンター)	岐阜県飛騨市
白川郷合掌文化館	(ヘリテイジセンター)	岐阜県白川村
白川郷合掌造り民家	(保護資産)	
名勝大乘院庭園文化館	(ヘリテイジセンター)	奈良県奈良市
名勝 旧大乘院庭園	(保護資産)	
長浜鉄道文化館	(ヘリテイジセンター)	滋賀県長浜市
北陸線電化記念館	(ヘリテイジセンター)	
琴引浜鳴き砂文化館	(ヘリテイジセンター)	京都府京丹後市
村上歴史文化館	(ヘリテイジセンター)	新潟県村上市
四国鉄道文化館	(ヘリテイジセンター)	愛媛県西条市
天心遺跡記念公園	(保護資産)	茨城県北茨城市
天心墓所	(保護資産)	
SL 列車トラストトレイン号	(保護資産)	静岡県島田市
旧安田楠雄邸庭園	(保護資産)	東京都文京区
駒井家住宅	(保護資産)	京都府京都市
旧モーガン邸 (庭園のみ)	(保護資産)	神奈川県藤沢市
巻機山	(保護資産)	新潟県

(JNT ホームページより作成)

第2章 ヘリテージセンターを起点とした「葛城古道」（奈良県御所市）

第1節 「葛城古道」の資産的価値

「葛城の道」には「葛城古道」という呼び方もある。「葛城古道」についてインターネットで検索（検索エンジンは google）すると図1のような結果が反映された。



図1 Googleによる検索結果

「葛城古道」がいわゆるハイキング・散策コースとして紹介されていることがわかる。情報の発信者は個人、近鉄電車、御所市などである。各サイトを閲覧してみると、ハイキングマップ等イラスト入りで分かりやすく作られている。私たちは「葛城古道」における「資産価値は何か」という点について確認し、同時に「資産価値の説明」という点においてマップに改善の余地はないものかと考え、実際に現地視察を行うこととした。

インターネット検索で「葛城古道」についての定義・説明を求めると、「金剛・葛城山麓を南北に走る山裾の道で、街道として最も古いと言われる竹ノ内街道から、北葛城郡新庄町大字寺口・笛吹を經由して、御所市大字小林・櫛羅・檜原・森脇・名柄・極楽寺・朝妻・高天・伏見・鴨神に至る古道で、この道に沿って数多くの名神大社や由緒ある寺院が存在し、更に歴史の彼方へと消え去ってしまった、高間千坊や戒那千坊と伝えられる、おびただしい数の古代寺院が存在していた。また、この道は、鴨族、葛城族などの古代豪族が、当時の主要道として往来していた道でもある。」³との文章が見つかった。すなわち文字通り古道であり、その起源は1000年以上昔に遡り、現在においてもその歴史を示す社寺のいくつかが存在していることが資産価値であるといえる。

私たちの提案するコースのポイントとなるのは、まずヘリテッジセンターに立ち寄る（ヘリテッジセンターを起点とする）という点である。これまで作成された「葛城古道」マップでヘリテッジセンターの場所を示したものはあるが、そこがどういった位置づけの建物なのか説明したものは見当たらなかった。実際にこちらを訪問すれば、「葛城古道」の概要がパネル表示の解説などで掴むことができるので「葛城古道」ウォーキングツアーの起点としてふさわしいと考える。

第2節 ヘリテッジセンターを起点とした「葛城古道」観光コースの作成

2015年10月現在、「鴨神そば」という店名のおそば屋さんが併設されており、資料展示室は店舗の奥に位置している。床面には御所市・葛城市のマップが印刷され、展示資料としては、「葛城の道」マップ（御所市観光協会発行）などを無料配布。パネル展示として、「葛城の道」周辺の各神社、寺院、行事や祭りなどの写真と説明、発掘された考古学資料などがある。こちらを起点に実際に「葛城の道」を歩き作成したマップが地図1である。マップの作成にはジャストシステムの地図作成ソフト、「地図スタジオ2」を使用した。このソフトはパソコン上でGoogle



写真 1 葛城の道歴史文化館内

マップをトレースできるため距離関係はきわめて正確である。現在、各観光施設などのホームページにおいて、その場所への行き方（アクセス）を検索すると、Google マップによる表示が主流となっている。これは Google の地図機能としてマイ・マップ機能⁴が搭載されて以来であろう。住所やルートを示すには便利な機能であるが、印刷して持ち歩くには向かない。私たちの地図は PDF ファイルとしてダウンロードされ、印刷することに主眼を置いたものである。既存の「葛城の道」マップを何種類か検討し、また実際に歩いてみた結果、感じた問題点及びその改善案として次の要素を盛り込んだマップとなっている。

³ http://www.city.gose.nara.jp/kankou/gra/1katsuragi_0.html 御所市ホームページ

⁴ Google マップ上で特定の場所やルートを表示する機能

- ① ヘリテージセンターの位置づけについて、触れられていない。 → 「葛城古道」の資産価値概要を理解するための施設であるヘリテージセンターを起点としてウオーキングツアーを開始する。
- ② 縮尺がデフォルメされているものが多く、実際の距離、所要時間が掴みづらい。 → 正確な縮尺を行い、距離の目安を入れる。
- ③ ユニバーサルツーリズムの観点から、障がいをお持ちの方や高齢者への対応について配慮されたマップがない。 → マップ内に情報を入れる。例えば写真 2. の高天彦神社への参道はかなりの急勾配である。
- ④ 過去に作成され改訂されていない以上当然であるが、情報がすでに古い部分がある。 → リニューアル（改訂作業）を随時する必要がある。また観光的にみて新しくオープンした魅力的なショップの情報を載せた。今回の実地ウオーキングでは、写真 3. の長柄の集落に位置する「郵便長柄館」である。長らく使用されていなかった郵便局跡地と建物をリニューアルし、レトロな雰囲気のカフェと資料館になっている。「葛城の道歴史文化館」を起点としたウオーキングコースの丁度中間地点に位置しており、現実的な観光の休憩場所、食事場所としてもぴったりである。ウオーキングしていて実際困ることとして多いものに「トイレ」がある。お店の方からこちらで「トイレ」だけを済まされる方も多いと聞いたがそれでも全く構わないとのことであった。こういった情報も実際は大切だと考える。
- ⑤ 外国人（外国語）への対応に関して、多言語で紹介されたものがない。 → 多言語対応とする。（今回の実例には反映していない）

これらのことから JNT ホームページに「葛城古道観光モデルコース」マップを掲載する。またヘリテージセンター内にも印刷された「葛城古道観光モデルコース」マップを置く。その観光モデルコース、およびマップの作成において、私たちのような専門学校生と連携することを提案したい。既存のマップは大型で折り畳んで使用するものや、A4 横サイズが多い。しかしながらこの「葛城古道」は概ね南北の道なので A4 縦サイズとする。印刷は表・裏両面カラーとし、裏面には観光スポットの詳しい案内やこのコースの特徴であるこの地域の歴史についても触れる。



写真 2 コース内高天彦神社参道 入り口



写真 3 郵便長柄館

図 2 葛城古道 観光モデルコース A4 サイズ (表面)



図 3 葛城古道 観光モデルコース A4 サイズ (裏面)

金剛・葛城山麓を南北に走る山裾の道で、街道として最も古いと言われる竹ノ内街道から、北葛城郡新庄町大字寺口・笛吹を經由して、御所市大字小林・櫛羅・檜原・森・名柄・極楽寺・朝妻・高天・伏見・鴨神に至る古道で、この道に沿って数多くの名神大社や由緒ある寺院が存在し、更に歴史の彼方へと消え去ってしまった、高間千坊や戒那千坊と伝えられる、おびただしい数の古代寺院が存在していた。また、この道は、鴨族、葛城族などの古代豪族が、当時の主要道として往来していた道でもある。(御所市ホームページからの抜粋)

番号	資産名	説明
	葛城の道歴史文化館 ↓すぐ隣です	葛城古道を散策するための情報拠点であり、休憩所として、地元自治体や観光協会が中心となって活動を続けている。 【開館時間】10:00~16:00【休館日】月・火曜、年末年始 【入館料】無料【駐車場】有り【電話】0745-66-1159
①	高鴨神社 ↓ 2.5km 参道は急勾配です	大和の名門豪族である鴨族の守護神を祀った社。弥生中期、この地から鴨の一族はひろく全国に分布してゆき、各地で鴨族の神を祀った。京都の賀茂神社は有名だが、それら賀茂社の総社にあたる。 【住所】奈良県御所市鴨神 1110【電話】0745-66-0609
②	高天彦神社 高天原 ↓ 0.6km	神社のご神体は背後の白雲嶽。御所市の高天は古来より神話の世界である高天原の伝承地として伝えられる場所のひとつ。金剛山の中腹に広がる高原台地でここからは大和盆地を一望できる。高天原地域では歴史を感じる古い民家を眺めながら歩くのも楽しみ。 【住所】奈良県御所市北窪 158
③	橋本院 ↓ 2km 山道を抜けるのはかなりの急勾配。	養老2年(718年)高天山登拝のためにこの地を訪れた行基菩薩が霊地であると感じ一精舎を建てたのが始まりとされる。鑑真和上を住職に任命されるなど、孝謙天皇も深く帰依され高天千軒と呼ばれる格式の高い大寺院であった。 【住所】〒639-2336 奈良県御所市高天 350【電話】0745-66-2141
④	極楽寺 ↓ 2.4km	天曆5年(951年)に奈良興福寺の一和という僧がこのお寺を開いたと伝えられている。鐘楼が山門となっているのが珍しい。 【住所】御所市南郷 1639【電話】0745-66-0145
⑤	郵便長柄館 ↓ 1.2km	2015年に旧名柄郵便局の旧舎が、「tegami café」と「郵便資料館」が併設された郵便名柄館にリニューアル。地元産の野菜を使ったランチや郵便関連の展示資料を楽しめる。 【開館時間】11:00~16:00【定休日】火・水曜日 【住所】奈良県御所市名柄 326-1【電話】0745-60-8386
⑥	一言主神社 ↓ 1.3km	壮大な社殿で広い境内があり、銀杏の老木が茂る神社。願い事を一言だけ聞いてくれる「一言」さんとして、長く親しまれ無言参りの神として広く信仰されている。 【住所】奈良県御所市大字森脇 432【電話】0745-66-0178
⑦	九品寺	聖武天皇の勅により行基が開基した戒那千坊の一つ。本尊の阿弥陀如来坐像は藤原時代の造りとみられる。 【住所】奈良県御所市檜原 1188

第3章 JNT 保護資産「駒井家住宅」を起点としたヴォーリズ建築（京都府京都市）

第1節 「駒井家住宅」の資産的価値

駒井家住宅は、米国人建築家 W.M.ヴォーリズによる昭和初期の洋風住宅で、建築当初の状態がよく保存されていることから 1998（平成 10）年に、京都市指定有形文化財に指定された。京都大学名誉教授・駒井卓博士の私邸であるが、所有者であるご家族から、2002（平成 14）年、土地および建物が JNT に寄贈されている。JNT では修復活動を進めながら、2004（平成 16）年から一般公開を行なっている保護資産である。JNT ホームページにはその案内とアクセスや、公開日・入館料が記載されている。

第2節 「駒井家住宅」を起点としたヴォーリズ建築を巡る観光コースの作成

インターネット等で「ヴォーリズ 京都」と検索すると駒井家住宅は代表建築物としてヒットするが、私たちは基本的にこの建物の価値を「ヴォーリズ建築」であると考え、観光客誘致を考えた。この建物を起点とした京都市内の「ヴォーリズ建築」を見て歩く観光モデルコースの作成である。本物件以外は JNT とは現時点において関係はないが、「ヴォーリズ建築」という資産価値に代わりはない。他の「ヴォーリズ建築」と組み合わせて訪問することにより駒井家住宅の価値も認識しやすくなるという観点からの提案である。観光資源としては「点」であるより「線」で結び「面」として構成する方が有利であるからだ。京都観光・散策マップも数多く作成されているが、「ヴォーリズ建築」を巡るという切り口のマップは検索結果見当たらなかった。ヴォーリズによる建築物は日本中にあり、特に滋賀県近江八幡がその中心となっている。JNT のホームページからは「ヴォーリズ建築文化全国ネットワーク」にジャンプすることが可能である。しかしながら資源を活用した観光誘致のためには範囲が広すぎるので京都市内に絞ることとした。京都市内は第2章で取り上げた「葛城古道」マップとは違って市街地であり、また周辺には魅力的な観光施設も多い。そこでマップ内にはできる限り周辺の観光名所も入れるようにした。その方が街歩きの際の目印にもなるからである。マップ内にはヴォーリズ建築の場所と、モデルルートを示す。現実的にはその時の道路状況、交通状況により他のルートを通っても問題はない。市街地の場合、道路の選択肢は多い。



写真 4 駒井家住宅



写真 5 東華彩館



写真 6 フランソワ喫茶室

図 4 京都 ヴォーリス建築巡りマップ A4 サイズ(表)



京都市内ヴォーリス建築物マップ

図 5 京都 ヴォーリズ建築巡りマップ A4 サイズ(裏)

番号	資産名	説明
①	駒井家住宅 ↓ 2.3km	ヴォーリズ建築の京都における代表建築物。 京都大学名誉教授である駒井卓博士の私邸であり、アメリカン・スパニッシュ様式を基調とした昭和初期の洋風住宅。 【開館時間】 10:00~16:00【休館日】 7月第3週~8月末、12月第3週~2月末 【入館料】 500円【駐車場】 なし【電話】 075-724-3115
②	京都大学 YMCA 会館 ↓ すぐ近くです	1913(大正2)年に建てられたヴォーリズの初期作の一つ。 煉瓦造り2階建てで、モルタル塗のハーフティンバー風の建物。 2003年に改修工事を行い、大学のYMCA会館としては現存最古の建物とされている。 【住所】 京都府京都市左京区吉田牛ノ宮町21【電話】 075-753-2038
	京都府立医科大学 基督教青年会橋井寮 ↓ 1.9km	こちらも1913(大正2)年に建てられたヴォーリズの初期作の一つであり、 京都府立医科大学のYMCAとして建てられたもので現在も寮として使用されている。 【住所】 京都府京都市左京区吉田牛ノ宮町23
③	同志社大学 ↓ 1.4km	こちらではアーモスト館と啓明館がヴォーリズ建築の代表格としてあげられる。 アーモスト館は学生寮として建設され、外観はニューイングランド・ジョージアンスタイルと呼ばれる様式が用いられている。 啓明館はヴォーリズの同志社大学での最初の建築物であり、同志社大学の2代目図書館として建てられた。図書館は4階建てで本館は5階建てとなっている。 【住所】 京都府京都市上京区今出川通り烏丸東入【電話】 075-251-3120
④	大丸ヴィラ ↓ 2.5km	1932(昭和7)年に建てられた大丸12代目社長の下村正太郎の旧邸。 チューダー様式を用いた洋館となっており、様式名にちなんで「中道軒」と呼ばれている。内部は現在のところ非公開となっているが外観のみの見学は可能。 【住所】 京都府京都市上京区烏丸通り丸太町
⑤	東華菜館 ↓ 0.2km	1926(大正15)年にヴォーリズによって建てられたヴォーリズ唯一のレストラン建築。 スペイン・バロック様式を基調とした四条のランドマーク。現在は中華料理店だが元々はフランス料理店向けに建てられた。玄関ファサードで印象的な海の幸や山の幸等食材のモチーフは館内にもちりばめられており、シンプルな直線と曲線を組み合わせた天井や梁・腰板・扉の装飾が美しいのも特徴的である。現存する日本最古のエレベーターもあり、現在もほぼ大正15年竣工当時の姿を残している。 【営業時間】 11:30~21:30【定休日】 なし 【住所】 京都府京都市下京区四条大橋西詰【電話】 075-221-1147
⑥	フランソア喫茶室	1934(昭和9)年に開店し、店名は画家のフランソアミレーから名付けられた。 イタリアンバロック様式が施された内装で、豪華客船のホールをイメージして作られたとされているレトロな喫茶室。 【営業時間】 10:00~23:00 【住所】 京都府京都市下京区西木屋町通り四条【電話】 075-351-4042

京都市は、現在世界中から注目される人気の観光都市で、米旅行誌「トラベル+レジャー」が発表した2015年版世界の人気観光都市ランキングでも、2年連続で1位に選ばれている。その理由として神社仏閣などの歴史的建造物が真っ先に挙げられるが、明治・大正・昭和の時代における優れた西洋建築も現存している。「ヴォーリズ建築」もその1つといえるが、観光的な考え方をすれば、たとえば「駒井家を起点に京都市内の近代西洋建築を巡る」といったコースにまで発展させることもできるだろう。今回、「ヴォーリズ建築」を訪問してみて建物内には入れない場所もあったが、外観からだけでも建築物としての魅力が多く、京都観光における新しいコースとして提案することができる。

第4章 ヘリテイジセンターや保護資産を観光素材とし外国人観光客にもアピールする為に

第1節 ヘリテッジセンターや保護資産の活用案として観光コースの作成

第2章で取り上げた事例以外に、表1. 記載のヘリテッジセンターや保護資産の活用案（観光コースの作成）をいくつか例示する。今回の論文のために実際に訪問したわけではなく、過去の訪問経験と資産価値等からの提案である。日本人のみならず外国人観光客に提供するために、ホームページや印刷物にコース内容を全て英語ページ（及び中国語・韓国語など）で掲載するが、ここでは概略プランを日本語で記載する。

(1) 白川郷合掌文化館（ヘリテイジセンター）と白川郷合掌造り民家（保護資産）

白川郷荻町は国の重要伝統的建造物群保存地区であり、世界遺産にも登録されている。JNTは1988（昭和63）年に2棟の合掌造り民家の買い取りを行い、そのうち明治時代中期に建てられた旧松井家を1993（平成5）年にヘリテイジセンター「白川郷合掌文化館」として修復公開している。茅葺き屋根の修復作業は村の共同作業「結（ゆい）」の制度で行われているが、この制度が独特なシステムであることを説明したパンフレットを作成し、ここを起点とした観光コースマップを作成する。ここでは特に建物の保全・保護をJNTやボランティアがどのように取り組んでいるかを説明した内容とする。観光客への意識付けが大切である。

（コース案）

「白川郷合掌文化館」からスタート →（徒歩）→ 「明善寺」（白川郷で最大の合掌造り寺院） →（徒歩）→ 「写真撮影スポット」 →（徒歩）→ 「和田家」（最大規模の合掌造り・重要文化財） →（バス）→ 展望台

(2) 長浜鉄道文化館と北陸線電化記念館（共にヘリテイジセンター）

長浜鉄道スクエアという名称で「旧長浜駅舎」と「長浜鉄道文化館」及び「北陸線電化記念館」の3つの建物から構成されており、JNTホームページにもその旨紹介されている。ここでは「鉄道」を切り口に観光プランを考えた。ヘリテイジセンター見学後、長浜～木ノ本間の「蒸気機関車」で湖北路を旅する。列車は昭和10年～14年にかけて製造された、愛称「ポニー」で有名な「C56形160号機」であるが、不定期運転なので運転日を調べておく。単に施設を見学するだけでなく関連性のある「蒸気機関車」によるいわば、プチトリップを組み込むことにより観光客の集客をはかる。

(コース案)

長浜鉄道スクエアからスタート → (徒歩) → 長浜駅 SL 列車の旅

2015 年度の秋の運転日は 11 月 15 日・22 日・29 日 (いずれも日曜日) であった。

長浜駅 13 時 30 分発 → 虎姫駅 10 時 39 分発 → 河毛駅 13 時 46 分発 →

高月駅発 13 時 53 分発 → 木ノ本駅着 14 時 00 分 着後、きのもと SL まつりを観光

(3) 琴引浜鳴き砂文化館 (ヘリテイジセンター)

「琴引浜鳴き砂文化館」は、世界初の「鳴き砂」をテーマとし、人と自然との関わりや海の環境保全について考え学ぶ施設であり、JNT にとって全国 6 番目のヘリテイジセンターとして 2002 年 10 月にオープンした。琴引浜の鳴き砂の中に含まれて音を発する石英や 2~3 ミリで成貝となる微小貝などを顕微鏡で見ることができるなど展示が充実しているので、文化館内での見学時間を多めに取る。その後、琴引浜ガイドウオークに出発。鳴き砂、漂着物、植物、ジオパーク、歴史の 5 つのキーワードをもとに、自然の中をガイドと一緒に歩き新しい発見をする。このコースではジオパークガイドの方に案内をお願いする。

(コース案)

「琴引浜鳴き砂文化館」館内見学 → (ジオパークガイドの方と徒歩で) → 琴引浜 → 太鼓浜(琴引浜中央)近くの天然露天風呂 (無料・入浴可能シーズンは 4 月~11 月) で入浴・休憩

コース案は簡単なウォーキングコースであるが、琴引浜の資産価値は大きく「山陰海岸ジオパーク」にあると考えられる。「山陰海岸ジオパーク」は、京都府京丹後市の経ヶ岬から、鳥取県鳥取市の白兎海岸まで、京都府 (京丹後市)、兵庫県 (豊岡市、香美町、新温泉町)、鳥取県 (岩美町、鳥取市) の 1 府 2 県 3 市 3 町をまたぎ、東西約 110 km、南北最大 30km に広がっている。「琴引浜鳴き砂文化館」を起点として、鳥取県・鳥取砂丘辺りまでの宿泊を伴ったコース設定も多数考えられる。

(4) 名勝大乘院庭園文化館 (ヘリテイジセンター) と名勝 旧大乘院庭園 (保護資産)

ヘリテイジセンターは、中世の遺構を残す貴重な旧大乘院庭園の南側隣接地に建設されている。近くには歴史的町並みが残る奈良町があるので、その散策の起点として観光コースをプランニングする。奈良ホテルは大乘院庭園の跡地の小高い丘に建設された、各界著名人も宿泊する奈良で最も歴史と格式のあるホテルで、本館は近代化産業遺産となっている。奈良町は、そのほぼ全域が元興寺の旧境内で、街路には江戸時代以降の町屋が数多く建ち並んでいる。大乘院は興福寺の塔頭であったという歴史的関係から、この地域の観光資源として最も有名な場所の一つである興福寺までを紹介するコースとする。奈良市の中心部なので、一般的なガイドブックにモデルコースは多数紹介されているが、ここでもポイントは JNT のヘリテイジセンターと、保護資産を起点としてすることで、その資産価値をアピールする。

(コース案)

大乘院庭園文化館を起点 → (徒歩) → 旧大乘院庭園 → (徒歩) → 奈良ホテル → (徒歩) → 奈良町 → (徒歩) → 興福寺

以上、第2章および第3章では具体的なウォーキングマップの作例を示した。第4章・第1節の(1)～(4)は、コースの概略を示した。実際のマップ作成に当たってはそれぞれの観光地の特徴に合わせて魅力あるものとする必要がある。例えば第4章・第1節(4)におけるコース内の奈良町などは最も街歩きマップが多様な地域であるので、新規オープンショップなども随時掲載し、独自性のあるものを作成する。

以上のように全ての場合においてヘリテイジセンターや保護資産を起点とするコース内容が、JNTによる観光地に対する利活用方法として適切と考える。

第2節 JNT ホームページのマルチ言語化など

私たちは今回、私たち自身が学んでいる専門学校における学科の専門性（旅行ビジネス）と大阪市内に立地するという条件（地域性）を活かした提案として近畿圏周辺の観光コースのプラン作成をおこなった。しかしながらそれらは、私たち自身の学ぶ専門領域のみの実務作業である。ホームページのマルチ言語化を行うにはさらに、語学系専門領域（英語・中国語・韓国語）で学ぶ学生の協力も得る必要がある。本校には語学の専攻があるので、可能性について学生および教員に打診したところ、賛同をいただいた。

JNT ホームページにおける English ページのコンテンツは次のようなものであった。

What is the National Trust?

The Association of National Trusts in Japan

Protects the Nature and Historical Environments Nearby.

Outline of the Association's Activities

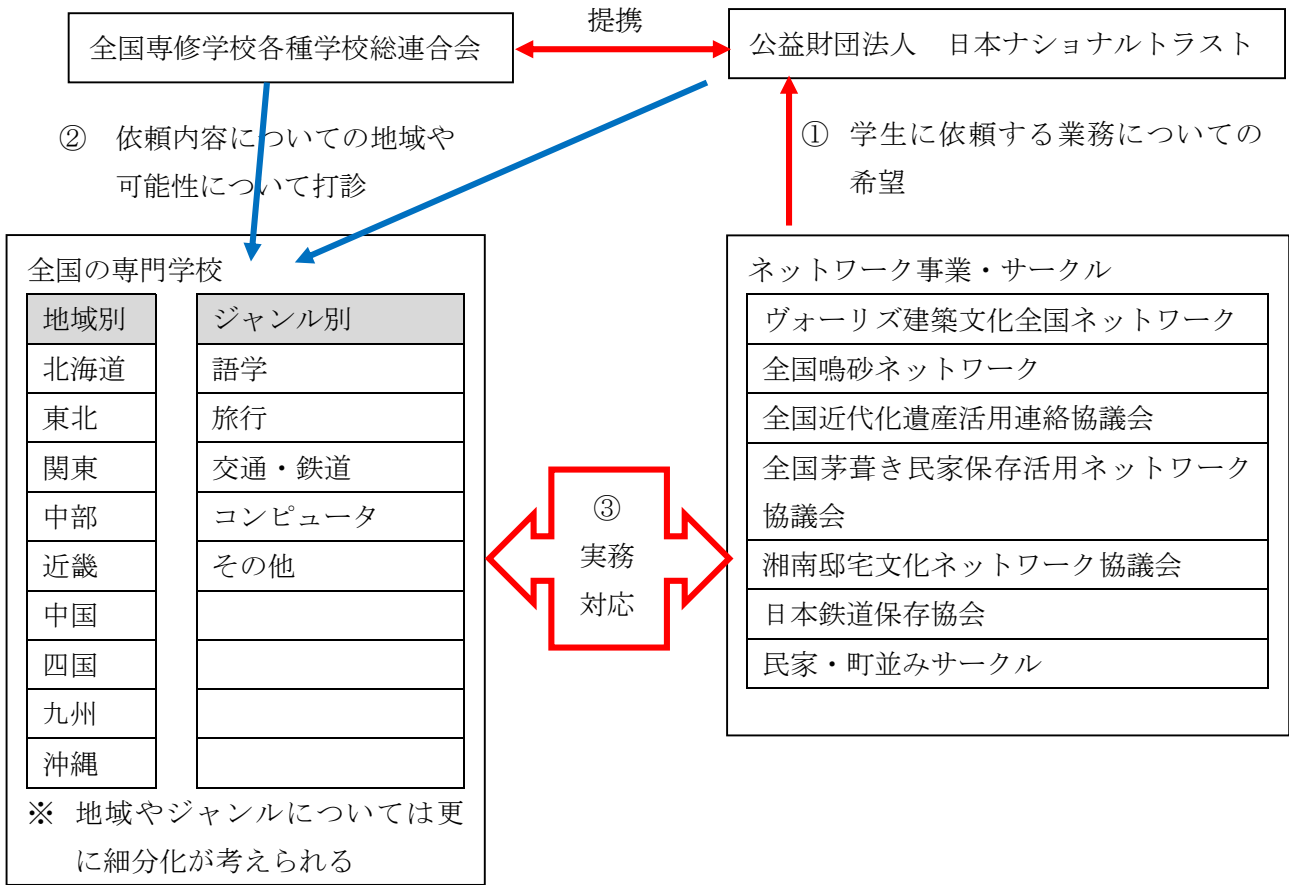
ナショナルトラストとは何かということや、日本での活動内容についての概略が示されている。

今回、取り上げた事例のような形で観光コースとしての紹介を英文（及び他言語）で加えることを提案するが、ホームページのマルチ言語化だけでなくヘリテイジセンターなどの案内文に関してもマルチ言語化が望まれる。さらにJNTが支援するネットワーク組織に対しても同様の提供ができるのではないかと考える。一般的にホームページのマルチ言語化には、それなりのコストがかかるが、語学・観光系専門学校との提携によりインターンシップという形でボランティア翻訳での提供も可能となる。学生にとってのメリットも大きい。ホームページや、コース内容を翻訳することがまさに翻訳実務の勉強である。またコンピュータ系専門学校にサイトの構築やホームページのデザインなども依頼できるのではないだろうか。

この取り組みは、学生にとっての学習メリットもあるが、JNTにとってもナショナルトラスト運動について若い世代に啓蒙していく機会としてとらえることもできる。実現に向けてはJNT、専門学校、双方の協力が必要なのは当然であるが、意思の疎通、確認と言った作業を実現していくために一定の枠組みを作る必要がある。そこで次章における図6.のような産学提携の枠組みを提案したい。

第5章 産学提携の枠組み

図6 産学連携の枠組み



- ① まず、JNT 自身やネットワーク事業団体・サークルから具体的内容についての依頼をあげる
- ② 地域性や専門性から担当専門学校を選択し、打診する
(あるいは専門学校からの応募という形も考えられる)
- ③ 詳細について担当者間で打合せを行う
実務対応に関して、学校サイドでは教員を担当窓口とする
ホームページの翻訳では語学教員による文法・表現の確認を行った後の提出とする

参考文献および参照ホームページ

葛城の道	財団法人 観光資源保護団体	1984年3月
御所市 葛城の道（地図）	御所市観光協会	
街道をゆく 1 葛城のみち	司馬遼太郎著 朝日文庫	1978年10月
ヴォーリズの西洋館—日本近代住宅の先駆	山形 政昭 淡交社	2002年7月
京都レトロ散歩	ナカムラユキ POP 研究所	2012年12月

公益社団法人 日本ナショナルトラスト
ヴォーリズ建築文化全国ネットワーク
全国鳴砂ネットワーク
山陰海岸ジオパーク推進協議会
奈良県 御所市 観光 HP
全国専修学校各種学校総連合会

<http://www.national-trust.or.jp/>
<http://d.hatena.ne.jp/hitotubunokai/>
<http://www.nakisuna.jp/network/>
<http://sanin-geo.jp/>
<http://goshikankou.jp/index.html>
<http://www.zensenkaku.gr.jp>